



奉納御礼

安佐北区亀山の墓石メンテナンス
安部和男様より慈父悲母観音菩薩石
像を寄進いただきました。

— 尊い喜捨に対し衷心より —

感謝申しあげます

厳しかったお父さん
だけど、叱っても温か
く包んでくれました
優しかったお母さん
でも、凛として正しく
導いてくれました
歳月は夢の如く流れて
幾星霜
去る者は日々に疎しと
言うけれど
その温容は今も尚昨日
の如く
瞼に浮び感謝の涙が果
てしなく
頬を濡らすのである
父は照り母は涙の
露となり
同じ恵みに育つ撫子
この詩は、高野山奥之院参
道に設置してある石碑で両
親に対する感謝の気持ちを
端的に表しています。
当山霊園内に安置した慈父
悲母観音菩薩背後に額が掛
けられました。墓参の帰り
にお参り下さい。



第五十八番札所 於、仙遊寺本堂前

四国遍路之報告

第九期第三回巡拝 伊予の国
三月二十四日～二十六日

大変好天に恵まれた三
日間の参拝でした。コロ
ナ関連のニュース一色の
なかでしたが、それぞれ
十分に気を付けながら無
事に打ち終えることがで
きました。来年は四十年
間続いた四十回の巡拝で
十回目の結願となり一つ
の区切りの遍路となる予
定です。

「築庭四〇〇年縮景園と

近世広島絵画」 展覧会

◇会期 十月一日(木)～十二月二十四日(木)
◇会場 広島県立美術館 二階

広島初代藩主浅野長晟が上田
宗箇に庭園築造を命じたのは元
和六年(一六二〇)、令和二年
(二〇二〇)は築庭四〇〇年を迎
えました。これまで県内でも光を
浴びる機会の少なかった襖絵や屏
風絵を一挙に観覧でき、広島藩ゆ
かりの絵画作品を展示して開催さ
れます。

縮景園の変遷を構成軸とし、同
時代絵画によって広島藩の文化風
土に迫ります。

当山からの出展作品は左の通りです。

岩鶴図 浅野重晟
龍図 浅野綱長
山水図 澤 三石
波涛群鶴図 小泉探賞斎
泉亭図屏風 高屋肖哲

暑中お見舞い 申しあげます

令和二年 酷暑

新型コロナウイルス感染拡大という中で、全国各地では、自
粛が相次ぎ諸行事を延期・中止せざるを得ない事態と
なっています。緊急事態宣言が解除されたとはいえ、就
労や教育のみならず様々な面で影響を及ぼすこととなり
ました。人々が集い相互の交流を深めることを前提とし
て成り立ってきた生活の営みが、危機に瀕し、過剰な不
安や恐れから生じた差別、偏見というウイルスの「心の
感染」が、人々の絆を分断しながら蔓延し始めています。
コロナ禍により多くの方が尊い命を失い心からお悔や
み申し上げると共に災禍終息と罹患者の回復、全世界の
人々が平和と心の安定を得られるよう皆様と共に祈り続
けたいと思います。



広島市のフラ
イデオオーバ
ションに合わ
せ梵鐘を鳴ら
して参拝者と
祈りを届ける

三密実践と3密回避

奇しくも、三密(3密)を通じて実践と回避という反対語を伝えることとなりました。
既にご承知の通り、手洗いうがいやマスクの着用と共に「3密」の回避は(密集・
密接・密閉)を避ける取り組みとして、換気の悪い密閉空間・多数が集まる密集場所・
間近で会話や発声をする密接場面・を避けましょうという注意喚起です。

緊急事態宣言が発令され、外出を自粛している中で、映画【空海】(昭和五十九年)
を久しぶりに見ました。このたび、特に印象深かったのは、弟子と共に全国を行脚す
る空海が、疫病が流行っている場面に遭遇しその中に飛び込んで苦しんでいる人を励
まし勇気づけそして祈るシーン。もう一つは、豪雨が続き、毎年のように繰り返され
る自然災害への恐怖に対して民衆と共に行動し護摩修行し、満濃池を完成させるシー
ンです。

正に、約千二百年を経た令和の現代でも我々がそっくりそのまま置き換えられる事
が出来ると感じました。いくら時代は移り変わっても大自然に対し謙虚に畏敬の念を
持ち、神仏に対する信仰を深めることこそ、今一度再確認しなければならないと思っ
た次第です。



疫病にあえぐ人々を集めて看病する
空海は行きながら仏となれと説く



郷里讃岐の土を踏んだ空海は、父か
ら大きな池を作ってくれとたのまれ
50日以内に満濃池を作ると渾身の
力を込めて護摩を焚いた



「三密の尊等しく刹塵の三密を互相に加入し、彼此摂持せり。衆生の三密もまたかくのごとし。故に三密加持と名づく。もし真言行人あってこの義を観察して、手に印契を作し、口に真言を誦し、心三摩地に住すれば、三密相応して加持するが故に、早く大悉地を得る。」

(二つ一つの尊者である仏は、等しく微塵ほどの身・口・意へ三密をそなえており、それらは相互に加入し、彼れ此れとがあわせもたれている。人びとの身・口・意の活動の領域においてもまったく同じである。それを三密加持という。もしも、真言行を修する人がいて、この意味を深く観察し、手に印契をむすび、口に真言を誦し、意に瞑想をこらせば、まさしく仏の三密と人びとの三密とが相応し、加持の世界が実現し、それによって深い悟りの境界と一体化させることができるのである)

つまり、三密とは、仏の「身(からだ)・口(ことば)・意(こころ)」にわたる活動のことであり、それは同時に私たちの「身・口・意」の活動に直接かわっている、ということなのです。またそれは、日常生活のなかでの私たちの「身・口・意」にわたる善行にまでつながっている、ということができるよう。

永代供養納骨塔建立

近年家庭構成の核家族化が進み、さまざまに家族制度が変わりゆく中で当山にも多くの要求が寄せられています。

お墓をお持ちでない方・後継者の心配な方・先祖のお墓を維持していくのが不安な方・交通の不便な所に墓地がある方・その他の事情により今後の供養が困難な方等々安息の地を求める方の要望にこたえるため、霊園入口右側の一角にある聖地に永代供養納骨塔を建立いたしました。

この塔は、弘法大師が御入定されている高野山奥の院御廟の横にある納骨堂を模して造られ、仏さまが住まいをする家を現しています。この塔にご遺骨を預り安置し、永代に亘りご供養することを目的とするものです。

ご遺骨は、金蘭の納骨専用袋に入れ自然に還る方法で奉安されていくそのまま土に還ります。一度納骨したら取り出せませんのでご了承ください。

静謐なる安息の地に奉安納骨した尊霊は、年回忌・祥月命日・盆・春秋彼岸に永代に亘り供養いたします。

永代供養なので無縁になる心配はありません。

我が家のお墓としてご自由にお参りいただけます。

問い合わせ・申込は当山事務所までお気軽にご相談下さい。

南無過去精霊



身体で行ないを表し
口 口で言うことを表し
意 心の中で思うことを表す

社会生活の中では、信頼される人でなければ人生から落伍しかねません。口では立派なことを言っている、心の中で思っていることが、その反対であったり、立派な行動をする人のように見せかけていても、実際の行動が立派でなかったりすれば、やがて世間の信頼を失ってしまいます。

身口意が常に同一であって「あの人が言うことは間違いない」と信頼される人にならないのです。また、三密の行は人間形成の中心になる行であるばかりか、私たちにとって最初で最後の究極の教えを実践することとなり、「即身成仏」この世を極楽に変え生きながら仏となる為のお大師さまの根本的な教えなのです。

三密実践

右 八木恵生君 嘱
高野山八十七歳真快



この染筆額は、昭和五十年当山山主が高野山大学二年生の折、既に管長を退任しておられた堀田真快大僧正猊下を自坊の明泉院に訪ね、揮毫を願い出て賜った一葉です。

名前の後に嘱と書かれているのは、頼みゆだねるの意味があり、「生涯を通して三密を実践するように」という当時八十七歳の猊下からの有り難いメッセージなのです。

堀田真快

明治二十三年大阪に生まれる

昭和四十二年高野山真言宗管長

金剛峯寺第四〇三世座主

因みに、弟の安岡正篤は、昭和二十年天皇陛下が読まれた終戦の詔勅の草案者として知られています。